

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800045		
法人名	社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会		
事業所名	いこいの村・とくらの家		
所在地	京都府綾部市十倉名畑町欠戸20番地の1		
自己評価作成日	平成27年12月 20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvovCd=2691800045-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvovCd=2691800045-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	平成28年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元の綾部市東部地域出身の方が優先的に利用できるような利用基準を設け、共通の経験や話題が日常的に感じられるように工夫している。母体施設のいこいの村聴覚言語障害センターは設立から33年、地元綾部東部地域の福祉の担い手として事業を展開している。2013年5月に同法人の訪問介護事業所、通所介護事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが隣接する場所に新築・移転し、とくら福祉センターとなり、より地域に密着した事業を進めている。それらの事業所と連携を密にとり、これまでの暮らしの継続が図れるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

綾部市の市街地を東方に抜け、車で20分程走ると十倉地区に着く。山・川・畑に日本の田園風景が見られる。この地に「とくら福祉センター」が開設され、綾部市の東部地域の福祉拠点としてしっかりと地域に根付いている。この中にグループホーム「いこいの村・とくらの家」1ユニットがある。季節毎の地域と事業所の行事に双方で参加しあい楽しみを共有している。又、運営推進会議の出席者に各会の代表者があり、意見交換の内容等から、地域全体で事業所を盛り立てて行こうとする強い思いが感じとれる。事業所内に於いても、施設長・管理者は、サービス向上に向けて全職員の意見を聞き取る工夫をしている。“入居者にとって、どの様な支援が必要なのか？”“自分はどんな支援がしたいのか？”“今、成すべき事は？”等々全職員から“より具体的な意見”を収集して、纏めて「課題」を抽出し事業計画に反映させている。従って、職員にとって働き易い職場となり、入居者にやさしいサービス提供に繋がっている。一人ひとりの思いを大切に、在宅時代の生活とあまり変わらない生活がこの事業所では実現されている。自分の出来る事を役割として、入居者・職員が助け合って、時の流れを穏やかな表情で過ごしている姿を見る事が出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				